


報道発表資料の配付日時 12月11日(水) 10時00分

|                     |   |      |  |
|---------------------|---|------|--|
| 発表項目<br>(行事名)       | 広報紙「地学協働」No.26(令和6年11月号)の発行について   |      |  |
| 記者レクチャー<br>のお知らせ    | (実施日時)  | 発表者  |  |
|                     |   | 発表場所 |  |
| 概要                  | <p>○ 広報紙「地学協働」No.26(令和6年11月号)を発行し、道教委ホームページに掲載しましたので、お知らせします。</p> <p><b>【発行の趣旨】</b><br/>北海道教育委員会では、道内の学校や地域の特色ある取組等の情報を広く関係者で共有できるよう、広報誌「地学協働」を刊行しています。毎号、教育関係者や保護者・地域の皆様にとってお役に立つ情報をお届けしています。</p> <p><b>【今月の注目タイトル】</b><br/>「地学協働アワード ～北海道本別高等学校の取組～」<br/>今月号の注目は「地学協働アワード2023」でグランプリを受賞した本別高校の記事です。生徒たちの探究の学びを充実させる「とちかち創生学部会(高校の学校運営協議会の部会)」の取組を紹介しています。ぜひ御覧ください。</p> <p><b>【その他のタイトル】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地学協働」に関する研修</li> <li>・図書局・図書委員が大活躍!～私たちが作る学校図書館～</li> <li>・自分に合ったスタイルで～電子図書館いろいろ～</li> </ul> <p>広報誌の中で気になる内容がありましたら、<br/>担当あてに問い合わせ願います。</p> <p><b>【広報誌「地学協働」のホームページ】</b> →→→→ </p> <p>URL: <a href="https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/sgg/132270.html">https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/sgg/132270.html</a></p> |      |  |
| 参考                  | 【添付資料】広報誌「地学協働」No.26(11月号)  |      |  |
| 報道(取材)に<br>当たってのお願い |   |      |  |
| 他のクラブ<br>との関係       | 同時配付<br>同時レク  | (場所) |  |
| 担当<br>(連絡先)         | 教育庁生涯学習推進局社会教育課課長補佐 長岡 広之<br>TEL ダイヤルイン 011-204-5744(内線35-503)<br>TEL 公用スマホ 011-585-6101(内線12743)   |      |  |



バックナンバーはこちら  
から御覧いただけます。

# 地学協働

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

2024年11月 No.26

## 1 地学協働アワード ～北海道本別高等学校の取組～

道教委では、地域課題を踏まえた学校教育目標やスクールミッション達成のため、生徒が多様な学習活動に取り組めるように地域との連携・協働体制を構築している学校の功績をたたえるため、令和4年度から地学協働アワードを実施しています。

今回は、令和5年度グランプリを獲得した北海道本別高等学校の体制構築や地域と連携した教育活動について紹介します。



本別高校のHP



### 学校運営協議会の機能を生かした地学協働の体制構築

#### 本別高校のスクール・ミッション

- 1 地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成
- 2 社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付け、持続可能な社会の実現に努める生徒の育成
- 3 グローバルな視点を持ち、社会の変化や社会課題に対応できる生徒の育成

#### スクール・ミッションの実現に向けて

本別高校の学校運営協議会は、3つの部会を設け、これらの部会と地域住民や関係団体とのつなぎ役となるコーディネーターがかけ取りを行う運営形態になっています。

本別町教委の職員を学校運営協議会委員に委嘱し、本別高校と地域をつなぐ地域コーディネーターも担ってもらっている。  
⇒高校と地域がスムーズに連携・協働することができる。

#### <3つの部会>

- ・とちかち創生学部会
- ・異校種連携部会
- ・地域連携部会

総合的な探究の時間である「とちかち創生学」について考える部会では、「地域の未来を創っていく生徒の育成」のために、委員の皆さんが地域でできることなどについて議論しています。



学校運営協議会の様子

### 今年度の主な取組と成果

本別町では、今年度から町教委職員の他にもう1名、コーディネーターを委嘱しています。コーディネーター同士が連携し、高校の学習等様々な活動に継続的に関わる地域人材を探して、協力要請を行うことにより、スイーツの開発・販売など学校だけでは実現が難しい活動を行うことができました。

←本別町の「スイーツ作り」をテーマにした第2学年の総合的な探究の時間の取組（本別町特産の黒豆を使用した「むせきなこソフト」を開発・販売）

本別町では、今年度から町教委職員の他にもう1名、コーディネーターを委嘱しています。コーディネーター同士が連携し、高校の学習等様々な活動に継続的に関わる地域人材を探して、協力要請を行うことにより、スイーツの開発・販売など学校だけでは実現が難しい活動を行うことができました。

←本別町の「スイーツ作り」をテーマにした第2学年の総合的な探究の時間の取組（本別町特産の黒豆を使用した「むせきなこソフト」を開発・販売）

#### 【取組の成果】

- もっと地域に貢献したいと思い、主体的に活動に取り組む生徒が増えた。
- 地域の方々との関わりを通して、生徒のコミュニケーションが向上した。
- 町との連携を通して、地域の中に「本別高校との連携」が当たり前のように根付いている。

## 2 「地学協働」に関する研修

10月に実施した、道教委主催の「地学協働」に関する研修の概要についてお知らせします。

### ■ 全道地学協働セミナー（令和6年10月9日 オンライン）

地学協働のポイントである「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」をテーマにセミナーをオンラインで実施し、全道各地から127名の方が参加しました。

#### ① 基調講演「学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進について」

学校運営協議会は学校経営の一手段。**校長がビジョンを持ち、市町村教委が伴走支援していくことが重要**。熟議を通して目指す子ども像を学校と地域が共有し、一体的に推進していくためには、現実社会での豊かな体験による子どもの育成が求められている。



明星大学教育学部特任教授 朝倉 美由紀 先生

#### ② 地域分科会：事例発表「町教委が推進する地域学校協働活動」

音更町教委では地学連携担当課長を置き、組織横断的な体制を構築。学校・地域を訪問し、ニーズ把握・講師確保・理解促進を進めるとともに、学校の負担を大幅に軽減し、学校の「やりたい」を後押し。**町教委が持続可能なふるさとづくりに貢献する人材育成とまちづくりを推進**している。



音更町教育委員会 大森 洋臣 課長(左)  
音更町教育委員会 鈴木 義秋 教育推進員(右)

#### ③ 学校分科会：演習「学校運営協議会における熟議の進め方」

学校にとっては、「**社会に開かれた教育課程**」の実現が重要な課題。**学校運営協議会は、そのために有用な仕組み**。熟議を通して「目指す子ども像」の実現に必要な地域の力を活用した教育活動を創りあげていく。熟議を繰り返すことで協議会委員が育ってくる。



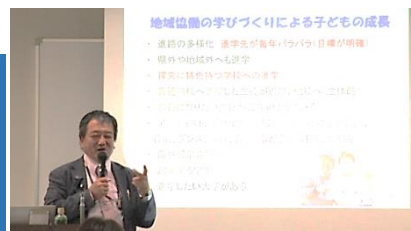
北海道地学協働アドバイザー 森 敏隆 氏

### ■ 地域コーディネーター研修講座（令和6年10月29日 会場参集）

コーディネーターのつながりづくりと対話による学び合いを重視した会場参集（かでの2・7会場）での研修講座を実施し、全道各地から61名の方が参加しました。参加者の30人以上が講師と名刺交換するなど、多くのつながりができた、熱気あふれる研修となりました。

#### ① 基調講演「地域と学校の協働を促すコーディネーター」

- ◆ 「目指す子ども像」の共有が活動のベースとなるので、学校運営協議会の協議が重要。
- ◆ 地域も主体的に授業づくりに関わり、子どもを育てていくための「協働」の意識を創りあげていくことがポイント。
- ◆ 関わった子どもが成長するのを見て、**ボランティアの方々の「またやりたい」「子どもたちの活動にもっと関わりたい」という意識が高まる。**



文科省CSマイスター 前川 浩一 氏

#### ② 情報交換「わたしの手法とあなたの手法」

学校種・所属する市町村の人口規模等でグルーピングし、お互いの実践を交流。直接交流する中にたくさんの学び合いがあり、多くの参加者から今後も対面での研修を希望する声があった。



情報交換の様子

#### 参加者アンケートより

- ★ 「子どもたちの学びを真ん中に」して、学校運営協議会を充実させていくための知恵を授かりました。
- ★ 学校の先生とよくコミュニケーションをとって、子どもたちのために問題解決していきけるように考えていきたいと思いました。

### 2つの研修を通して

- ◆ 「校長のビジョン」「目指す子ども像」を学校と地域が共有し、その実現に向けて地学協働の活動を進めていく。
- ◆ 地域の大人との関わりで、子どもが育ち、それを見て、地域の方がさらに活動に参画することで地域学校協働活動がより活性化する。

# 3 図書館・図書委員が大活躍！～私たちが作る学校図書館～

道内の高校では、生徒の自主的な活動である図書局や図書委員会が、学校図書館活動の一部を担い、その運営を支えています。今回は、その積極的な行動力や企画力が光る道立高校の活動を紹介します。他の部活動とのコラボ、外部講師を招いてのイベント、市立図書館との連携。世の中のあらゆる分野の知識（本）をそなえた図書館には、“協働”のヒントがいっぱいです。

## 1 北海道札幌東高等学校 図書局

### 被爆体験講話～戦争を風化させない～

札幌東高校図書館では、北海道被爆者協会理事の金子廣子さんによる被爆体験講話を行いました。この講話は、北海道被爆者協会が令和7年3月末で解散することが決まり、被爆体験者の声を聞く機会が減っていく現状に危機感を持った図書局によって企画されました。

講話には約70人の生徒が参加し、被爆が原因でいじめられた幼少期の体験や、今も心と体に残り続ける傷についてのお話を伺いました。原爆や戦争は、歴史として風化させていいものではなく、全ての世代が自分ごととして捉えることが大切だと認識する機会となりました。



被爆体験講話

### 図書館の可能性を広げる挑戦を！

札幌東高図書局では文化交流を目的とした数々のイベントも企画しています。ハロウィンイベント、クリスマスコンサートなどの季節に合わせたイベントや、映画鑑賞会や他の部活動とのコラボ企画も行っています。もちろん、図書館本来の機能を充実させる取組にも余念はありません。本の魅力を伝えるPOP作成や特設コーナーの設置、おしゃれなBGMで利用者が会話しやすい雰囲気を作ったり、幅広い生徒が利用できる場所にするために館内にカードゲームやボードゲームを置いたりするなどの工夫もしています。

札幌東高図書局は、既存の枠にとらわれない活動を通し、図書館という空間の可能性を広げることに挑戦しています。



クリスマスコンサートを図書館で♪

## 2 北海道恵庭北高等学校 図書委員会

### 「俺たちには図書館がある！」

恵北図書館は、情報交換の場でありコミュニケーションの場です。名前も知らない先輩と後輩が放課後、世界の経済状況や政治について熱く意見を戦わせる場所。図書館でよく見かけるので顔はよく知っているけれど名前は知らない人と一緒に定期試験対策の勉強をする場所。教室にいたくない色々なクラスの人たちが集まってくだらない話をしながら一緒にお弁当を食べる場所。アルバイトの愚痴を先輩に聞いてもらい、時に「それはお前が悪いわ」とたしなめられることもある場所。野球部の一年生が会合を開く。同じ検定を受ける知らない人同士で勉強をする。一人静かに課題をやる。隅っこで専門学校に問い合わせの電話をする。館内装飾を手伝いながらバス時間まで時間をつぶす。スマホでゲームをしながら保護者の迎えを待つ…。

「使われることに意義がある」を合言葉に、来館者が言う「俺たちには図書館という居場所がある！」という言葉に応えるべく、図書委員（その他の有志）たちは日々過ごしやすい環境作りに精進しています。



放課後は大騒ぎ

### 図書館にレタス!? 日常の中に図書館が…

朝読書を終えた生徒が勝手に置いていき、誰でも勝手に持って行ける「自由に持って行っていいよ本棚」、恵庭市立図書館とのブックライン、学級文庫。日常の中に常に本が近くにある状態を維持するため鋭意努力中です。漫画研究部とコラボして本の挿絵を描いてもらったり、イラストをラミネートしたしおりを図書館においてもらったり。生物部とタッグを組んで、お弁当を食べる生徒の栄養バランスのために図書館にレタスを植えてみたり。写真部とタイアップして図書館で撮影会を開いたり、館内写真を撮影してもらって展示してみたり。

相変わらず季節ごとの飾り付けにも力を入れており、なんだか毎日忙しく活動している恵庭北図書委員会です。



学校祭では本にまつわるクイズ展示

### 三条図書館の魅力は図書局員の人柄にあり！

本が好き！人が好き！本校図書館の魅力は個性豊かな仲間が集まる図書局員にあります。三条図書局では楽しく活動しながら、知識と教養を増やし、語彙力を身につけ、コミュニケーション能力を培い、経験を学びに変える…そんな毎日を送っています。絵がうまい人、声がかっこいい人、デザインセンスが光る人、リーダーシップが取れる人、ユーモアいっぱいの人…などなど個性派集団がそれぞれの強みを発揮してワクワクを作っています。



今年のHalloween

### 三条図書館における課題解決は認め合うことから。信頼関係を大切に。

ないものを数えるより、今ここにあるものを伸ばして認めていくことが図書局の活動の基本理念です。お互いをカバーし、良さを認め合いながら活動することで生徒による課題解決方法を模索できるようになります。学び合いや関わり合いの中から多様なアイデアが生まれ、同時に自己肯定感も高まる。そんな「図書館は自分が話をしてもいい場所だ、ここにいたい」と思える、幸せを感じる空間づくりに取り組んでいます。

### 人との繋がりが三条図書局成長の鍵となる。

昨年度の高文連全道図書研究大会T-1（図書館活動）グランプリで優勝をつかみ、今年度は司会進行と表彰までの運営を務めました。年間7～8回発行の図書館報『Library』は伝統的制作方法により17年連続入賞、POPフェスタでも2年連続全国大会へ選抜されています。

ビブリオバトルにも意欲的に取り組んでいます。ビブリオバトルは入試に取り入れられることもあるため授業でも実施しており、「三条図書局杯」を実施してレベルアップを図っています。地元開催のバトルには図書局員と一緒に校長先生も参加。図書館では等身大の校長先生パネルに校長通信を掲示し、紹介いただいた本を展示しています。お客様の見学ルートには必ず図書館が入っており、名物「校長コーナー」のほか、展示や装飾などを楽しんでいただいています。

11月末には帯広市図書館で読み聞かせお話を初めて体験します。年齢層に合った本の選定、読み聞かせの技術、せりふ回しなど、練習に励んでいます。

図書館学者ランガナータンの言葉「図書館は成長する有機体である」はまさに三条図書局にピッタリ。図書館活動は今日も成長中。三条図書館に関わるすべての生徒が、仲間とつくる物語の主役です。学校生活の中に図書館が存在し、教育課程の延長線上に学校図書館が置かれるには、「人」がいてこそ。毎日楽しく賑わいあふれる三条図書館・図書局は学校内の心のオアシスです。



クリスマスコーナーを相談中

## 4 自分に合ったスタイルで～電子図書館いろいろ～

道立図書館が提供する電子図書館サービス（KinoDen）を紹介します。様々なかたちの資料をお楽しみください。※KinoDenの閲覧には、道立図書館の利用登録（無料）が必要です。

#### 1. スマホサイズで持ち運び！

紙では大きくて重くて持ち運べないという本も、電子書籍ならスマホサイズ。例えば1,627ページある『新分類牧野日本植物図鑑』（北隆館、2017）もあなたの手の中に…。小さな字はスワイプすれば、拡大も思いのまま。



#### 2. もちろん雑誌もあります！

画面で小説を読むのは苦手という方は、「るるぶ」や「まっがる」などの旅行ガイドはいかがでしょう。旅先でも自宅でも、写真が豊富に掲載された全国のガイドを御覧いただけます。



#### 3. ○○しながら聞く読書！

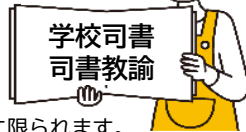
「オーディオブック」をご存じですか？本の朗読をラジオのように聞くことができる電子書籍です。小説のほか、実用書や語学書など約700点の「聴く本」を提供中です。



#### 学校図書館業務も応援します！

学校名で「学校図書館協力貸出し」の利用登録をすることで、電子図書館も利用できます。購入図書を選書や学習支援の参考※に、ぜひ御活用ください。

※学校名での利用は、職員による図書館業務に限られます。



題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益社団法人 北海道観光機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>